平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月31日

上場会社名 兼松日産農林株式会社　　上場取引所　東
コード番号 7961　URL http://www.knn.co.jp
代表者　(役職名) 取締役社長　(氏名) 高崎 實
問合せ先責任者　(役職名) 経理部長　(氏名) 田中 昭浩　TEL 03-3265-8231

四半期報告書提出予定日　平成26年2月3日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	9,209	16.8	571	21.2	589	25.0	617	33.8
25年3月期第3四半期	7,888	△5.9	471	△2.3	471	△1.5	461	2.0

(注)包括利益　26年3月期第3四半期　636百万円　(46.6%)　25年3月期第3四半期　434百万円　(9.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	14.89	―
25年3月期第3四半期	11.12	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	8,012	4,564	57.0	110.09
25年3月期	7,430	3,927	52.9	94.74

(参考)自己資本　26年3月期第3四半期　4,564百万円　25年3月期　3,927百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	―	0.00	―	0.00	0.00
26年3月期	―	0.00	―		
26年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,500	9.9	600	4.7	600	4.5	600	12.4	14.47

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
②①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	41,492,000 株	25年3月期	41,492,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	32,065 株	25年3月期	31,172 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	41,460,324 株	25年3月期3Q	41,461,029 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、日銀の金融緩和や政府主導の公共投資等により経済成長を目指す経済政策「アベノミクス」の効果から、円安の進行による輸出の増加、企業業績の回復、株式市場の好況、消費マインドの改善など、景気は緩やかに回復しました。一方では、円安に伴う輸入諸資材の価格上昇、海外では欧州の債務問題やアメリカの財政状況、中国経済の減速などの下振れ要因もあり、依然として先行き不透明な状況となっております。

当社グループの主な事業分野であります住宅関連業界は、消費税引き上げ前の駆け込み需要や東北地方の復興需要、雇用と所得の環境改善、また住宅ローン控除等の住宅取得支援策の効果もあり、新設住宅着工戸数は前年同期を上回る水準で推移しています。

このような事業環境のもと当社グループは、技術力と営業の強化に継続して積極的に取り組みました。この結果、当第３四半期連結累計期間における経営成績は、売上高92億９百万円（前年同期比16.8%増）、営業利益５億７千１百万円（前年同期比21.2%増）、経常利益５億８千９百万円（前年同期比25.0%増）、四半期純利益６億１千７百万円（前年同期比33.8%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

ジオテック（地盤改良）事業

地盤改良事業は、緊急を要する東日本大震災の復旧需要が一段落したことにより沈下修正工事は大幅に減少しましたが、当社独自の木質杭を施工材料とする「環境パイル工法」の大手住宅メーカーによる採用実績が増加し、また、広く地盤改良技術や施工材料の販売に注力したことから業績は堅調に推移いたしました。 売上高は37億２千３百万円（前年同期比6.7%増）、営業利益は１億１千万円（前年同期比161.0%増）となりました。

木材加工事業

消費税引き上げ前の駆け込み需要等により新設住宅着工戸数が増加する状況下、保存木材の販売、保存処理薬剤の販売共に前年同期を上回ることができました。特に乾式保存処理木材の製造は、平成24年12月に処理設備を東北工場に増設し、製造能力を拡大させましたが、４工場ともフル稼働の状況が継続しております。乾式木材保存処理用装置の販売では新たに１基を納入いたしました。また、太陽光パネル架台を保存処理木材で製作する取り組みを新たに開始しております。売上高は33億９千９百万円（前年同期比30.6%増）と増加しましたが、原材料価格が高騰、高止まりしている状況で売価への価格転嫁が遅れていることにより営業利益は１億９百万円（前年同期比1.5%減）にとどまりました。

セキュリティ機器事業

ＩＰカメラ、ネットワークレコーダー等の新製品の市場投入と人員の増強による販売体制の強化により新規顧客が増加していることに加え、前期より継続している大型の案件が業績の向上に寄与しました。 また、事業の更なる拡大を目指し、主力の名古屋営業所を増床のため移転し、東北出張所（仙台市）を開設するなどの施策を行いました。売上高は11億９百万円（前年同期比26.9%増）、営業利益は３億２千１百万円（前年同期比5.6%増）となりました。

石油製品事業

ハイブリッド車の普及によるガソリン消費の減少、円安と原油価格の高騰が続く厳しい環境のなか、店頭におけるサービスの徹底と配達による販売の拡大に努めた結果、燃料油の販売数量は前年同期比増加しました。売上高７億１千万円（前年同期比9.2%増）、営業利益１千９百万円（前年同期比100.8%増）となりました。

その他事業

マッチ事業は、使い捨てライターの安全対策規制の影響やコンビニエンスストア向けの出荷増から販売数量は前年同期比増加しておりますが、食品用ラップを中心とする雑貨品の販売は引き続き低調に推移しました。売上高２億６千５百万円（前年同期比1.3%減）、営業利益２百万円（前年同期は営業損失４百万円）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末の総資産は80億１千２百万円であり、前連結会計年度末と比較して５億８千２百万円増加いたしました。

流動資産は、現金及び預金は減少いたしましたが、受取手形及び売掛金、商品及び製品、原材料の増加等により５億４千１百万円増加いたしました。固定資産は、投資有価証券の増加等により４千万円増加いたしました。

流動負債は、支払手形及び買掛金は増加いたしましたが、短期借入金の減少等により５千３百万円減少いたしました。固定負債は退職給付引当金、長期借入金は減少いたしましたが、長期未払金、商品保証引当金の増加等により０百万円減少いたしました。

純資産はその他有価証券評価差額金が増加したほか、四半期純利益６億１千７百万円の計上等により前連結会計年度末から６億３千６百万円増加し、45億６千４百万円となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が下支えするなかで景気の回復基調が続くことが期待されますが、一方では円安に伴う輸入原材料の価格上昇や海外景気の下振れ懸念等、景気が下押しされるリスクが存在し、また、消費税引き上げ前の駆け込み需要の反動減が見込まれることから、住宅関連業界は厳しい状況が予想されます。

通期の連結業績予想につきましては、平成25年10月25日に公表した売上高115億円、経常利益６億円、当期純利益６億円に変更ありません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成25年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,269	1,078
受取手形及び売掛金	1,944	2,359
商品及び製品	584	644
仕掛品	0	12
原材料	299	527
その他	77	96
貸倒引当金	△7	△7
流動資産合計	4,169	4,711
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	263	261
機械装置及び運搬具（純額）	290	297
土地	2,200	2,200
リース資産（純額）	23	21
その他（純額）	21	25
有形固定資産合計	2,800	2,806
無形固定資産	14	14
投資その他の資産		
投資有価証券	344	359
その他	132	146
貸倒引当金	△31	△25
投資その他の資産合計	446	480
固定資産合計	3,260	3,301
資産合計	7,430	8,012

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成25年12月31日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,716	2,297
短期借入金	868	307
リース債務	14	11
未払法人税等	83	34
賞与引当金	102	47
その他	262	296
流動負債合計	3,047	2,994
固定負債		
長期借入金	16	－
リース債務	18	16
繰延税金負債	49	60
退職給付引当金	206	129
商品保証引当金	57	110
資産除去債務	17	17
その他	88	119
固定負債合計	454	453
負債合計	3,502	3,448
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,325	3,325
資本剰余金	1,146	1,146
利益剰余金	△626	△9
自己株式	△4	△4
株主資本合計	3,840	4,457
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	87	106
繰延ヘッジ損益	△0	－
その他の包括利益累計額合計	87	106
純資産合計	3,927	4,564
負債純資産合計	7,430	8,012

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年12月31日）
売上高	7,888	9,209
売上原価	6,218	7,361
売上総利益	1,669	1,847
販売費及び一般管理費	1,198	1,276
営業利益	471	571
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	3
持分法による投資利益	5	4
受取補償金	―	8
受取賃貸料	4	2
その他	7	7
営業外収益合計	18	26
営業外費用		
支払利息	17	6
賃貸借契約解約違約金	―	1
その他	0	0
営業外費用合計	18	8
経常利益	471	589
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	56	15
退職給付引当金戻入額	―	71
特別利益合計	57	87
特別損失		
固定資産除却損	0	0
厚生年金基金脱退拠出金	13	―
特別損失合計	13	0
税金等調整前四半期純利益	515	677
法人税、住民税及び事業税	54	60
法人税等調整額	△0	△0
法人税等合計	54	60
少数株主損益調整前四半期純利益	461	617
四半期純利益	461	617

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	461	617
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△25	18
繰延ヘッジ損益	△1	0
その他の包括利益合計	△26	19
四半期包括利益	434	636
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	434	636
少数株主に係る四半期包括利益	―	―

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自平成24年４月１日 至平成24年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	ジオテック	木材加工	セキュリティ機器	石油製品	計				
売上高									
外部顧客への売上高	3,489	2,603	874	650	7,618	269	7,888	－	7,888
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	186	－	34	220	0	220	△220	－
計	3,489	2,790	874	684	7,839	269	8,108	△220	7,888
セグメント利益又は損失（△）	42	111	304	9	468	△4	463	7	471

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種マッチ製造販売事業等であります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額は、セグメント間取引消去７百万円であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自平成25年４月１日 至平成25年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	ジオテック	木材加工	セキュリティ機器	石油製品	計				
売上高									
外部顧客への売上高	3,723	3,399	1,109	710	8,943	265	9,209	－	9,209
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	363	－	36	400	－	400	△400	－
計	3,723	3,763	1,109	746	9,343	265	9,609	△400	9,209
セグメント利益	110	109	321	19	561	2	563	7	571

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種マッチ製造販売事業等であります。

２．セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去７百万円であります。

３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。